

## 平成17年度 第4回 役員会議事要録

日 時 平成17年5月17日(火) 13:30～14:30

場 所 北方キャンパス本館 E701会議室

出席者 阿南理事長、矢田副理事長(学長)、出口理事、棚次理事(副学長)、国武理事(副学長)、羽田野理事(事務局長)、

### 配布資料

- 1 各課題項目の作業スケジュール(案)
- 2 教育研究審議会の経過
- 3 第2回教育研究審議会 審議資料
- 4 第3回教育研究審議会 審議資料
- 5 第4回教育研究審議会 審議資料
- 6 公立大学法人北九州市立大学学報(創刊号)

### 報告要旨

#### 第1号 日程について

(質問なし)

#### 第2号 教育研究審議会の経過報告について

- 教授半数制の見直しとは、何に対する半数か。
- 現状が、教員の1/2。見直して増やすということである。
- どういう情勢に基づいて増やすのか。
- 現在、人事が滞留している。滞留した助教授を教授に上げることで、インセンティブを向上させられるし、外部から教授も採用することができる。
- 必要な財政措置はとっている。教授半数制の見直しは、中期計画の中に盛り込んでいる。
- この件に対して教授会の反応はいい。
- 検討委員会の構成イメージについて、委員長以外に名前が入っていないのはなぜか。
- 各委員長が人選中のためである。
- 委員会見直しは、大きなテーマである。企業人として運営していくときに、企業であれば部がある。大学では、委員会が担うと考えてよいか。
- 基本的には、各学部がある。大学では全学的調整は不可欠であり、それを行うのが委員会である。
- それぞれの委員会のミッション(果たすべき使命)は、委員会中心に考えるのか。
- 実際には、各委員会が各学部に向けながら調整しながらやっていく。番号3(評価委員会)、番号4(学部学科等再編委員会)はいわば特別なミッション。分科会ごとに議論す

るが、常に委員長同士で調整していく。

- 広報に係わる範囲は幅広い。学長等のメッセンジャーでもあるし、学生向け広報もあり、分野が多岐にわたっている。
- 各委員会間の調整については、工程表、課題を出して、そこで考えればいいのではないか。
- （広報に関して）中期計画には、具体的なミッションが出ておらず、提示する必要はある。
- 委員会は、学部というフォーマルな組織を横につなげるものである。あくまで、教育研究審議会へ提案する機能を持つものである。
- 7月よりももっと急いで出せるものは、報告書を出す。ロースクールやビジネススクールなど。

### 第3号 学報について

- 学報作成のコストはどのようになっているのか。
- 印刷は大学で行ったので、（費用は）ほとんどかかっていない。
- 学生への周知はどうなっているのか。
- 学生が自由に取れるように、学生課に置いている。
- 学内だけでなく保護者への広報活動が必要ではないか。
- 単位取得状況を保護者に通知することは、私立ならばどこでも行っており、するべきではないか。
- 理事長、学長の考えを徹底する方法があまりない。広報センターの役割、あり方を議論していくべきである。